

京都市町村体制づくり支援交付金 自己評価調書

団体名

京丹後市

2. 平成29年度 京都市町村体制づくり支援交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目							
広域連携事業		公共交通利用促進事業							
事業着手前									
課題・現状	丹後地域の公共交通の大動脈である京都丹後鉄道(丹鉄)は、京阪神と本市及び丹後・但馬間並びに市内の要所を結び、通学、通勤及び観光・ビジネス客の重要な移動手段である。近年、乗客数の落ち込みが著しいため、利用を促進し、乗客の減少に歯止めをかける必要がある。								
事業概要	高齢者(65歳以上)が京都丹後鉄道(丹鉄)を利用する場合に片道運賃の上限を200円とすることで、安価で便利な公共交通として利用の促進を図る。平成29年度からは、制度を拡充し(従来は往復利用のみが対象だったが、より利用しやすくするため、片道でも利用可能とした)、一層の利用促進を図る。								
期待される事業効果等	これまで個々の自治体で実施していたものを広域連携により事業実施することにより、効果的な丹鉄の利用促進が図られ、丹後地域全体の相乗効果が期待できる。また、広域連携によるコスト削減により財政負担の軽減を図ることができる。								
事業実績									
取組状況	65歳以上の高齢者が丹鉄を利用する場合に、片道運賃の上限を200円とするとともに、平成29年度からは片道利用も可能となるよう制度を拡充することで、より一層安価で便利な公共交通としての利用促進を図った。								
主な実績数値 (出来高数値等)	65歳以上の利用者:平成28年度18,884人→平成29年度19,401人(前年比 2.7%増)								
期待される事業効果等 に対する達成状況	◎	(左の理由)		本事業により高齢者の外出と鉄道の利用促進が図られるとともに、広域連携によるコスト削減により財政負担の軽減を図ることができた。また、平成29年度から片道利用も可能としたことにより、利用人数も増加した。					
事業効果									
事業効果の考え方	丹後広域で200円ルール事業を行うことにより、効果的な丹鉄の利用促進が図られ、単独で事業を展開した場合は2市2町委託料総額以上の事業費が必要と見込まれる。								
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29			
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	11,073	24,123	19,568	19,062	18,834	19,046			
本事業の実績額(b)	6,050	11,423	10,302	9,476	9,653	9,615			
効果(a)-(b)	5,023	12,700	9,266	9,586	9,181	9,431			

(記載要領)

単位:千円

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、期待される効果を上回ったときは◎、概ね期待どおりの効果であるときは○、期待される効果を下回ったときは▲を記載すること。